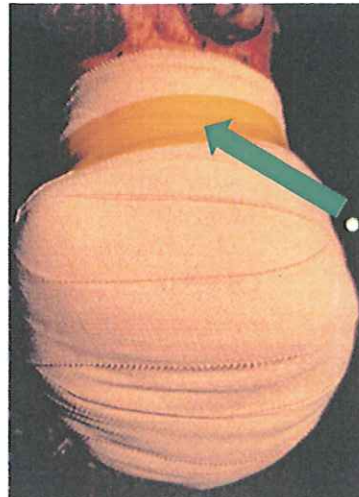
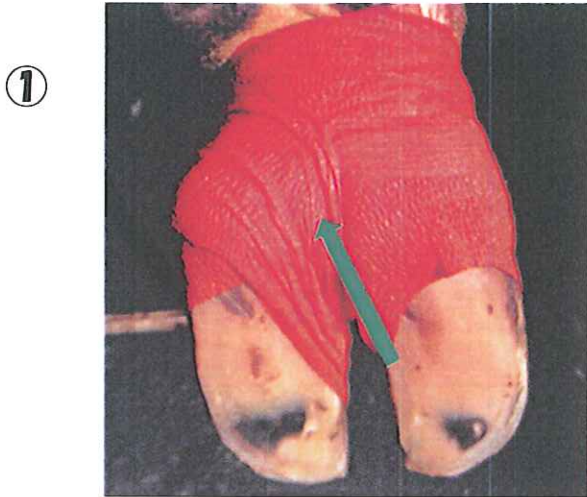


～ 伸縮包帯やビニールテープの巻きっぱなしに注意！ ～

削蹄や蹄病治療の後、下の写真のように包帯が巻かれていることはありませんか？病変をしばらく清潔に保つために包帯を巻くことが必要な場合がありますが、これを放置していると矢印で示した部分の包帯やビニールテープが食い込み、まれに二次災害を引き起こすことがあります。



PDD

上の①の写真はベトラップと呼ばれる包帯で、削蹄の後に巻いてある農場も多いですが、このベトラップ、非常に伸縮性が強く、コットンなどで下巻きせずに直接巻くと肢間を鬼のように締め付ける場合があります。肢間に食い込み、切り裂きます。このように肢間にかます巻き方は肢皮膚炎（PDD、DD）の治療で多いです。PDDは患部をきれいに洗って1日清潔に保たれるだけで十分ですので、削蹄後、このベトラップが巻かれている場合は3日以内に外すように心がけましょう。



上の②の写真は蹄病治療後に巻いた包帯がすぐに外れないようにビニールテープで補強したのですが、これもあまり強く締め付けられたまま放置されると下の写真のようなことになります。



ビニールテープやベトラップで締め付けられて虚血（血流阻害）
⇒足がむくむ、腫れる
⇒さらに締め付けられて血流阻害
⇒さらにむくむ
⇒次第に皮膚を突き破って食い込み、そこから感染
という負のスパイラルに陥ります

蹄底潰瘍や白線病などの治療後に患部を清潔に保つために厚く包帯を巻きますが、通常の蹄底潰瘍や白線病の場合、治療が的確に施されていれば基本的に包帯は1週間も巻かれていれば十分です。ですので、補強のために巻いたビニールテープもビニールテープだけは1週間以内に外すように心がけましょう。

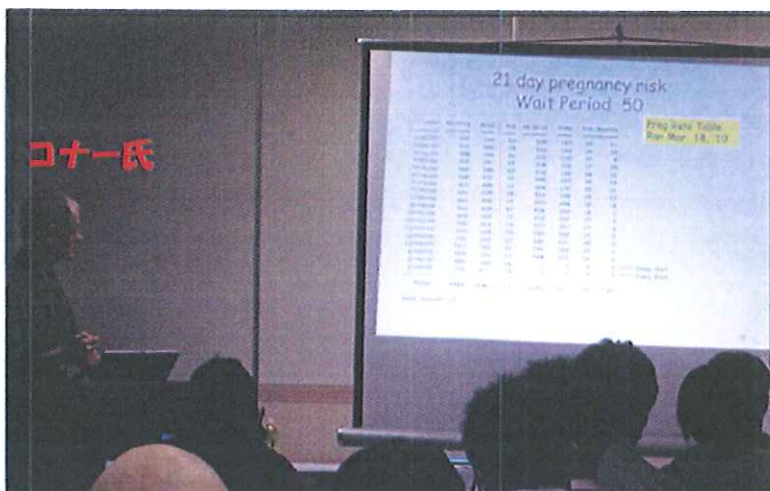


～ 講師をした感想 ～

Dairy COMP 305 セミナー

5月某日、中標津のトーヨーグランドホテルで4日間に渡って当社が繁殖検診で使用している牛群管理ソフト "Dairy COMP 305" のセミナーを開催しました。前半の1日目と2日目の午前までは初級者コース、それ以降の後半は中・上級者コースに分かれ、後半の中・上級者コースでは Dairy COMP 305 の創始者の一人であるコナー・ジェームソン氏および日本でこのソフトをコアに活用されている3名の方々に講師をしていただきました。そして前半のコースでは僭越ながら私、奥啓輔が Dairy COMP 305 の新規ユーザーまたは購入を検討されている方を対象に皆で実際にパソコンを操作しながらこのソフトの使い方を解説するセミナー講師をさせていただきました。

当初、参加人数は20～30名程度を想定していたのですが、予想を超える50名以上の方々が（北は稚内から南ははるばる沖縄にいたるまで）全国からお集まりくださいました。私にとってはこのような大勢の前で、しかも1日半の間話し続けるというのは初めてのことで、円滑に話が進められるよう大量の資料を作成して万全の態勢（のつもり）で臨んだのですが、当日はうまくソフトが作動しなかったり、資料が足りずに説明不足だったり……トラブル続出でした。。そんなこんなでしたが、発表後は参加者の皆様からお声をかけていただき、まずまずの発表だったようなので自分で自分に及第点を与えたいと思います。しかし人に伝えるというのは本当に難しいなと痛感しました。よく言われることですが、これまでインプットしたことをいかにアウトプットするのか。まだまだどっちに関しても未熟者です。このような貴重なチャンスを与えて頂いたことに感謝です。



今回のセミナーを通じてユーザーや将来のユーザーの方々に少しでも Dairy COMP 305 のことを理解していただき、さらにそれを彼らの関わる農場の牛群管理に役立ててもらえる一助となれたのであれば幸いです。講師をするにあたり、準備やセミナー当日に様々な形でサポートしていただいた皆様に深く感謝致します。

近所で噂の Dairy Comp ってなあに!?

先月の下旬に 4 日間にわたって Dairy Comp 305(以下 DC305)のセミナーが当社主催のもと行われました。講師は当社の奥啓輔先生と開発者の一人でもある Dr. Connor Jameson が務めました。新人の私は幸運にも全日程参加することができました。ご存知の方も多いと思いますが、この場をお借りして DC305 について少し紹介させていただきます(まだまだ私も勉強中ではありますが)。



DC305 ってなに!?

みなさんの中には DC305 を購入し使われている方もいると思いますが、簡単に言えば「牛群管理ソフト」です。全米では 4000 のユーザーを抱え、日本を含めた海外 22 か国で利用されています。DC305 は牛に関するすべての情報を記録し、好きなように選別・抽出できます!ご存じのとおり、牛群管理の基本になるのが「繁殖情報」。DC305 ではその繁殖情報をベースとしてさまざまな分析や現状を把握することが可能です。繁殖検診の際にチェックする牛のリストが送られてくるとは思いますが、そのリストは DC305 を使い管理されています。



どんなことができるの!?

情報を入力しておけばさまざまな分析・現状の把握を瞬時に行うことが可能です。たとえば過去 3 年間の月ごとの分娩頭数、受胎率の変動、各牛の乳生産量、第四胃変位や蹄病の月ごとの発生頭数、前回乳検査との体細胞数の比較分析などなど…例を出すより農家さん自身が「あれが知りたい!」、「これを見たい!」と思いついた大概のことを DC305 は教えてくれます。

使い方は!?

ではそういったさまざまな分析がどうして出来るのかというと、「データがある(ソフトの中に情報が入力されている)」からなんです。ただ、そのさま

ざまなデータは自分自身でパソコンにインストールされている DC305 のソフトへ入力しなければなりません。そうして入力された情報(乳検データや繁殖情報、疾病など)はすべて DC305 で管理することができます。最初は慣れない作業で大変かもしれませんが、日々の情報入力の積み重ねによって初めて DC305 は「魔法の道具」のような働きをしてくれます。逆を言えば、ずさんなデータ管理(入力が中途半端だったり、間違えだらけだったり)だと正確な分析は出来ず宝の持ち腐れとなってしまいます。



何から始めればいい!?

牛の情報を日々入力することを心がけてください。基本的な繁殖情報や疾病、乳量などの乳検データも入力してやればさらに多くの情報を DC305 から引き出すことができます。また、DC305 を持っていない方々も病気の情報等を検診担当獣医師に教えてください!その作業を最低 3 か月続けたら、今の農場の現状が実際に目で見える形で把握することができるでしょう。DC305 はあくまで「管理ソフト」です。現状を把握しそこから何が言えるのか、何を目標にしているのか…そこからは農家さんと我々との話し合いが必要になります。そして目標に向かっての実際の行動!**まずは日々の牛たちの情報を入力していきましょう。すべてはそこから始まります!成功に王道なし!**

検診担当の獣医師にぜひあれが知りたい!これが見たい!とご相談ください。きっと力になってくれるはずです!レッツ興味津々!!



茅野 大志
(かやの たいし)